

行番号	読んだ素材		協力者の発話内容		データ収集者の発話内容	備考
	ページ	文章	発話	日本語訳		
1					はい。読み始めて良いですよ。	
2	p.11	明治期関西ヴァイオリン事情	明治期関西ヴァイオリン事情 [日本語で発話する] ประวัติเรื่องราว ไวโอลิน [タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] ทาง 関西 [日本語で発話する] ในช่วง 明治 [日本語で発話する] อิม แลวก็	「明治期関西ヴァイオリン事情」「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] 物語の歴史、「関西」様式、「明治」期における、うーん。それから、あるのは。		
3	p.11	構成 1はじめに 2ヴァイオリンとの出会い 3たくさんあったViolinのカタカナ表記 4ヴァイオリンで唱歌 5ヴァイオリンの流行 6邦楽曲をヴァイオリン楽譜に 7邦楽の作法でヴァイオリン指導 8ヴァイオリンは三味線の代わり 9おわりに	[黙って文面に目を走らせている。] แบ่งบทว่า พูดถึงอะไรบ้างก็ไปตามบทแล้วกัน	[黙って文面に目を走らせている。] 章を分けているのは、何々があるか言及しています。ま、章にしたがって行きましょうか。		
4	p.11	1はじめに	เริ่มแรก	最初に。		
5	p.11	The violins that we discussed in the thesis were particularly popular out of the other western musical instruments introduced in the Meiji era to the point they become the social trend. However, the general concept of the violins now has changed to something "hard to master", and "expensive" instrument. Only few love to keep them or play as their hobby. Then, why the violins become so popular in the Meiji era when the western music was not familiar to the people in the society? In this thesis, the popularity of the violins and its factors with the seven key elements related to the violins in Kansai region in the Meiji era are discussed.	ที่น่าสนใจเหมือนที่ภาษาอังกฤษพูดหรือแปลนะ	ま、どうも英語で話しているようです。話す、なのでしょう。		
6	pp.11-12	本稿は、明治期関西の洋楽受容史研究の第1段階として行なった“編年史的研究”の次の段階として進めている“領域別研究”の一環に位置付けられるものである。“編年史的研究”の成果は、「関西洋楽文化史 I～IV(注1)」の4篇に、“領域別研究”の成果は「明治期関西洋楽(ピアノ)事情」	本稿は、の段階として 領域別研究 [日本語で発話する] [黙って読んでいる。] 位置づけられるものである 成果 領域別研究 みたい [日本語で発話する] แยกอะไรสักอย่างซึ่ง แต่ว่า 領域 [日本語で発話する] มันแปลว่าที่อยุธยา [黙って何かを考えている。] อ้อ แปลว่า โดย แบ่งแยกพื้นที่หรือแปลนะ	「本稿は、の段階として、領域別研究」。「黙って読んでいる」。「位置づけられるものである。成果、領域別研究、みたい」何かを分けています、それは、ですが、「領域」これは訳すとレジデンス。「黙って何かを考えている。」ああ。訳すと、土地を分けるか何かでしょうか。		
7					土地というのを具体的に。	
8			เออ ท่องกินน่าจะแบบแต่ละท้องถิ่นอะไรอย่างนี้หรือแปลลาคะ	えーと、地域は確かそれぞれの地域でこのように分けていたのではありませんか。		
9					なるほど。	
10			แต่ละภูมิภาค เพราะว่าอันนี้เป็นของ 関西 [日本語で発話する] อิม	それぞれの地方、というのはこれは「関西」のものですから。うーん。		
11			[黙って文を読み返している。] ก็ [笑う。] อู 漢字 [日本語で発話する] เมะจิง [笑う。]	[黙って文を読み返している。] ーん。[笑う。]「漢字」がとてもたくさん見えますね。[笑う。]		
12					[笑う。]	
13			เอาเป็นว่าน่าจะ เขาน่าจะพูดถึงประมาณนี้ แลวก็	結論としておそらく、だいたいこのようなことを話しています。それから、		
14	p.12	「明治期関西の民間音楽隊—洋楽普及に果たした役割—」	ถ้า กลุ่ม อ่า มินค่าน 音楽 [日本語で発話する] อ้อ น่าจะเป็นเกี่ยวกับชาวบ้านขึ้นอะไรสักอย่าง หรือแปลว่า มินค่าน มินค่าน [日本語で発話する] [スマートフォンに「มินค่าน」と打ち込んでJ-doradicで検索するとภาคเอกชน「民間」と表示された。]	あー、グループ、あー、「มินค่าน 音楽」うーん。おそらく市井の人のなんかの階級とかなのでしょうか。「มินค่าน, มินค่าน」。「スマートフォンに「มินค่าน」と打ち込んでJ-doradicで検索するとภาคเอกชน「民間」と表示された。」		
15					มินค่าน?	
16			ภาคเอกชน	民間。		
17					J-doradicだったんですね?	
18			はい [日本語で発話する]	「はい」。		
19					はい。	
20			民間 [日本語で発話する] ภาคเอกชน เกี่ยวกับ อะไร อ่า น่าจะเป็นแบบพลเรือนทั่วไปหรือแปลว่า	「民間」民間、何に関して。あー、おそらく一般の民間人のようなのでしょうか。		
21					うーん。	
22			ของ เออ ดนตรีของชาวบ้านในแถบ 関西 [日本語で発話する] ในช่วง 明治 [日本語で発話する]	もの、えーと、「関西」地域における市井の人の音楽、「明治」期の。		
23			[「洋楽普及に果たした役割」の部分を読み始める。] พูดถึง 洋 [日本語で発話する] กับ 普及に果たした役割 [日本語で発話する] เออ หน้าที่ของ บทบาทของเครื่องดนตรีตะวันตกที่ แพร่หลายไปในช่วงนั้นแล้วก็	[「洋楽普及に果たした役割」の部分を読み始める。]「洋」と普及に果たした役割について話しています。えーと、の義務、その時期に広まっていった西の楽器の役割、それから、		
24	p.12	「陸軍第四師団軍楽隊の選曲傾向」等の6篇(注2)にまとめ、公表済である。	陸軍 [日本語で発話する] แนวโน้มในการเลือก เพลงของ ทหาร อะไรสักอย่างซึ่งน่าจะเป็นเกี่ยวกับ ชั้นของญี่ปุ่นหรือแปลว่า	「陸軍」軍、の歌を選ぶことにおける傾向、とかなんとか。つまり、おそらく日本の階級に関してじゃないでしょうか。		
25					うーん。	
26			น่าจะเป็นเรื่องของประวัติศาสตร์ เอาเป็นว่าก็เป็น เรื่องของประวัติศาสตร์ไปก่อน	おそらく歴史学の話です。ひとまず歴史学の話と結論づけておきます。		
27					はい。	
28			こうひょうさい こうひょうさい [「公表済」を読み上げようとしている] [スマートフォンに「こうひょう」と打ち込んで候補の名から「公表」を選んでJ-doradicで検索すると การแจ้งให้สาธารณชนทราบ 「公衆に知らせること」と表示された。] อ้อ น่าจะ แปลว่า [黙って何かを考えている。] เป็น official [英語で発話する] เป็น อ่า แจ้งให้ สาธารณชนทราบ ทราบ แต่ว่า さい [「済」のこと] อันนี้ภาคต่อหลัง 公表 [日本語で発話する] แต่ก็ น่าจะความหมายคล้าย ๆ กัน	「こうひょうさい、こうひょうさい」「公表済」を読み上げようとしている。[スマートフォンに「こうひょう」と打ち込んで候補の名から「公表」を選んでJ-doradicで検索するとการแจ้งให้สาธารณชนทราบ「公衆に知らせること」と表示された。] ふう。おそらく訳すと、[黙って何かを考えている。]と、「official」[英語で発話する]です、です。あー、公衆に知らせること、知らせる。ですが、「さい」[「済」のこと]これが「公表」の後ろに続いてきます、が、ま、おそらく似たような意味でしょう。		

69			[黙って読んでいる。] 黙 ไม้ได้[述べて] ไม้	[黙って読んでいる。] うーん。[述べて] ませんね、いえ。		
70						述べていません。
71			ไม้ได้บอก แต่คิดว่าดูจากบริบทแล้วน่าจะ พุดถึง ชาวตะวันตกนะคะ	述べていません。ですが、文脈から見ると、西洋の人について言っていると思います。		
72						ふーん。
73			เพราะว่านี่มา เออ ชาวต่างชาติก็อาจจะ เป็น ชาวตะวันตกที่เล่นเครื่องดนตรีตะวันตก แต่ก็เป็นไป ได้ว่า ชาว เอเชีย[タイ語発音をする] อาจจะ ได้รับอิทธิพลมาก่อนแล้วก็เข้ามาเล่นด้วยแต่ก็ น่าจะยากกว่า	それは来ていて。えーと、外国人というのはおそらく西洋の楽器を演奏する西洋人で、ですが、「アジア」人[タイ語発音をする]だということもあり得ます。以前に影響を受けていたように、それで、入ってきて演奏もする。ですが、おそらくありえがたいです。		
74						はい。
75			น่าจะเป็นชาวตะวันตกคะ	おそらく西洋の人です。		
76						はい。
77	p.12	ヴァイオリンが関西の地に登場したことが確認できる最古の記録は、明治2年(1869)7月3日付の英字新聞The Hiogo Newsの記事である(注9)。	関西のに 登場した できる最古[日本語で発話する] พุดถึง เออ มันที่ก ที่ ที่มันที่กไว้ที่เก่าที่สุดว่า ว้ายออริ่น[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] ได้เข้ามาใน 関西[日本語で発話する] ก็คือคอน เออ 記事[日本語で発話する] มันที่กของ The Hiogo News[英語で発話する] นะ น่าจะเป็นหนังสือพิมพ์ 英字新聞[日本語で発話する] อ้อ เป็น หนังสือพิมพ์ภาษาอังกฤษ ลงวันที่สามเดือนเจ็ด หนึ่งแปดหกเก้าหรือ 明治[日本語で発話する] มี ที่สอง	「関西のに、登場した、できる最古」について話しています。えー、記録、に、に、最も古い記録にあるのは、「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]が「関西」に入ってきた。つまり、ときに、えー、「記事」。「The Hiogo News」[英語で発話する]の記録です。おそらく新聞「英字新聞」、ああ、英語の新聞です、3日、7月、1869あるいは「明治」2年付の。		
78	p.12	明治2年6月24・25日に The Hiogo Hotel(注10)でGeorge Caseという人物がconcertina(注11)とviolinを演奏したというものである。	The Hiogo Hotel[英語で発話する] で[日本語で発話する] George Case[英語で発話する] ぶつが[日本語で発話する] แล้วพววันที่มีสี่ห้า เดือนหก คนที่ชื่อ George[タイ語的に発音する] ก したと[日本語で発話する] อ้อ แล้วก็พวไปวันที่ มีสี่ห้าเดือนหก คนที่ชื่อ George[タイ語的に発音する] ก็มาแสดง คอน เซนโต คอนเสิร์ต[「concertina」を読もうとした] เออ concertina[タイ語的に発音する] กับ violin[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] ด้วย	「The Hiogo Hotel」[英語で発話する]「で」 「George Case」[英語で発話する]「ぶつが」それで、24[「にじゅうよん」ではなく、「によん」のように発音している]、25[「にじゅうご」ではなく、「にご」のように発音している]日、6月の、になると、「George」[タイ語的に発音する]という名前の人が、「したと」ああ。それから、24[「にじゅうよん」ではなく、「によん」のように発音している]、25[「にじゅうご」ではなく、「にご」のように発音している]日、6月にいたると、「George」[タイ語的に発音する]という名前の人が来て演じて、「コンセント」[「concertina」を読もうとした]、えっと、「concertina」[タイ語的に発音する]と「violin」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]もです。		
79	p.12	その後、歌劇団ほか様々な形態の芸能団が神戸で公演したことが、英字新聞に掲載された広告によって判明しており(注12)、そのパフォーマンスの中でヴァイオリンが使用された可能性は高い。	หลังจากนั้น [もももごと口を動かして読んでいるが、聞き取れない。] ก็มีกลุ่มที่เข้ามา เออ แสดง 形態 さまざまา形態[日本語で発話する] ที่ 神戸[日本語で発話する] มากมาย	その後、[もももごと口を動かして読んでいるが、聞き取れない。]んー、入ってきたグループがあります。えー、演じる、「形態、さまざまな形態」「神戸」で、たさんの。		
80						うーん。
81			判明しており 判明 判明[日本語で発話する] [スマートフォンに「判明」と打ち込んで「判明」に変換しJ-doradicで検索すると、「はんめい」という読みと、การเข้าใจ อย่างแจ่มชัด 「明確な理解」という意味が得られた。] เข้าใจ อย่างแจ่มแจ้ง อ้อ ก็มีการพิสูจน์หรือ พิสูจน์ เข้าใจ อย่างแจ่มแจ้ง แล้วเขาก็พูดถึงการว่ามีโฆษณาที่ ลงในหนังสือพิมพ์ภาษาอังกฤษอันนั้น ก็บอกว่าที่ เขามาแสดงดนตรี ที่ 神戸[日本語で発話する]	「判明しており、判明、判明。」[スマートフォンに「判明」と打ち込んで「判明」に変換しJ-doradicで検索すると、「はんめい」という読みと、การเข้าใจ อย่างแจ่มชัด 「明確な理解」という意味が得られた。]ははっきりと理解する。ああ、つまり、証明することですか。はっきりと理解したことを証明する。それに、その英語の新聞の中に広告が載せられていることについても話しています。音楽を披露しに来たことについて、「神戸」に。		
82						うん。
83			[[「そのパフォーマンスの中でヴァイオリンが使用された可能性は高い」]の部分で黙って読む。] แล้วก็พวก ีการแสดง show[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] นั้น การแสดงนั้น ก็คือมี ว้ายออริ่น[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] มีการใช้ ว้ายออริ่น[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]ค่อนข้างมาก	[[「そのパフォーマンスの中でヴァイオリンが使用された可能性は高い」]の部分で黙って読む。]それから、「パフォーマンス」[タイ語発音をする]の類か演じること、「show」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]が、その演じることに。要するに「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]があつて、「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]の使用かなり多くあります。		
84	p.12	神戸での公演は、日本人が東遊園地と呼んでいたRecreation Groundや、居留地劇場と呼んでいたGymnasium Theatreで行なわれることが多く、それらに日本人も参加することができた(注13)。	神戸での公演は 日本人が どうゆうえんちと呼んでいた[日本語で発話する] [黙って読んでいる。] การแสดงที่ 神戸[日本語で発話する] นั้นก็เรียกว่า 日本人が[日本語で発話する] คนญี่ปุ่นเรียกกันว่า とう[日本語で発話する] หรือว่า ひがし とうゆうえんち[日本語で発話する]	「神戸での公演は、日本人が、とうゆうえんちと呼んでいた。」「黙って読んでいる。」「神戸」で演じることは、呼ばれます。「日本人が、日本人が呼び合っているのは、「とう」もしくは、「ひがし、とうゆうえんち」です。		
85						うん。
86			เป็น 漢字[日本語で発話する] สวนสนุก [「遊園地」のこと] กับทางตะวันออก[「東」のこと] เกี่ยวกันยังไงนะ แต่ว่าคนญี่ปุ่นก็เรียกว่าอย่างนี้	遊園地[「遊園地」のこと]と東[「東」のこと]の漢字です。どう関わっているのでしょうか。でも、日本人はこうに呼んでいます。		
87						はい。
88			呼んで[日本語で発話する] อ้าว 呼んでいた[日本語で発話する] Recreation Ground[英語で発話する] や[日本語で発話する] Recreation Ground[英語で発話する] や ithubu劇場と呼んで行なわれることが多く[日本語で発話する] มีการ แสดง [黙って読んでいる。] อ้อ มีการแสดงที่ เขากันอกว่ามีการแสดงที่ต่าง ๆ ก็คือที่ Recreation Ground[英語で発話する] แล้วก็ Gymnasium Theatre[英語で発話する] ค่อนข้างเยอะ ซึ่งมันก็เป็นสถานที่ที่เขาไว้จัดแสดงสำหรับคนที่มาอยู่ อืม それらに日本人も参加する[日本語で発話する] แล้วคนญี่ปุ่นก็เข้ามาชมด้วยได้ เข้ามาดูได้	「呼んで」あーと、「呼んでいた」Recreation Ground」[英語で発話する]「や」Recreation Ground」[英語で発話する]「や、ithubu劇場と呼ん、で行なわれることが多く」演じることがあります。[黙って読んでいる。]ああ、演じることがあります。様々な演目があります。すなわち、「Recreation Ground」[英語で発話する]それから、「Gymnasium Theatre」[英語で発話する]がかなり多いです。つまり、それは来ている人のために組まれることになった演目がおかれる場所です。うーむ、「それらに日本人も参加する」それから、日本人も一緒に入って加わることができます。入ってきてみるすることができます。		
89	p.12	したがって、いくらかの神戸の人たちがごく早い時期にヴァイオリンに出会っていたと考えられる。	したがって いくらかの神戸の人たちが ごく早い時期にヴァイオリンに 出会っていた ごく早い ごく ごとく[日本語で発話する] [スマートフォンに「ごく」と打ち込んでJ-doradicで検索すると「もつとも」]มากที่สุด 「もつとも」、ที่สุด 「もつとも」、สุดขั้ว 「極端に」という意味が表示された。] มากที่ มาก ที่สุด ที่สุด ๆ ขั้ว อ้อ ดังนั้น いくらかの神戸の人たちが[日本語で発話する] คน คน 神戸[日本語で発話する] หลายคนก็เลย ฝรั่ง ว้ายออริ่น[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] ในช่วงที่ค่อนข้างจะเร็วมาก ๆ อยู่ เหมือนกัน เพราะว่ามีการจัดแสดงหลายที่ ใน 神戸[日本語で発話する]	「したがって、いくらかの神戸の人たちが、ごく早い時期にヴァイオリンに、出会っていた、ごく早い、ごく、ごく。」「スマートフォンに「ごく」と打ち込んでJ-doradicで検索すると「もつとも」]มากที่สุด「もつとも」、สุดขั้ว 「極端に」という意味が表示された。]多くて、もつとも多い、もつとも、極端に、あー、したがって、「いくらかの神戸の人たちが」、人、「神戸」の人、多くの人がそれで、「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]を知った。かなり、とても早い時期に、おなじく。というのは、「神戸」の中の、色々なところで催し物があったからです。		
90						はい。一緒に演奏もしましたか。
91			อะไรนะคะ	なんですか。		
92						演奏しましたか。
93			เล่น	演奏する。		
94						人が。

173				うん。		
174		เขามองว่านอกจากนี้บทความในคอนเสิร์ต บทความนี้ก็คือคอนเสิร์ตญี่ปุ่นก็ยังไม่ค่อยรู้จัก ไวโอลิน[タイ語]において外来語に当たり、タイ 語発音をする] กับเท่าไร なかったことも伝えてくれる[日本語で発話する] อ้อ อ้อ ก็คือบทความนี้ช่วยให้คนญี่ปุ่น ที่ไม่ค่อยรู้จัก เครื่องดนตรีนี้ น่าจะเขารู้จักว่าอะไร อ้อ มาก สื่อให้ คน ทำให้คนที่ไม่ค่อยรู้จักได้มาอ่านนี้ก็จะรู้จัก มากขึ้นนะโรเบิร์ต	述べているのは、このほかに当時の記事では、 えー、この記事はつまり、当時日本人はまだあまり、 たいして「ヴァイオリン」[タイ語]において外来 語に当たり、タイ語発音をする]を知らなかった。 「なかったことも伝えてくれる」うーん。ああ、つまり、 この記事は日本人、この楽器をあまり知らない、 を助けました、おそらく何かと呼びます。あー、 述べます、人に対して、あまり知ってこなかった人が これを読んで、おそらくより知ることになったとか そんなところですよ。			
175				うーん。		
176	p.13	また、同記事が出た翌月には『今度京都府学務課にては「ピオロンセロ」 (注22)「ヴァイオリン」の二楽器を購入し高等女学校へ備付らるゝよし抑も 此「ピオロンセロ」といへるは「ヴァイオリン」の小なるものにして…(注23)』 という記事が掲載されている。	またどうじきが出た[日本語で発話する] หลังจาก เดือนถัดมาที่บทความนี้ออกไป เติบโตขึ้น ปิออลองเซโร[日本語で発話する] ไวโอลิน[タイ語]において外来語に当たり、タイ 語発音をする] の[日本語で発話する] [黙って読んでいます。] という記事が[日本語で発話する] ก็มีบทความ บทความ ก็มีบทความอันนี้อีก เกี่ยวกับอะไร น่าจะประมาณว่าโรงเรียน หมู่บ้าน ปลายชื่อเครื่อง ดนตรี ปิออลองเซโร[日本語で発話する] กับ ไวโอลิน[タイ語]において外来語に当たり、タイ 語発音をする]	「またどうじきが出た」この記事が出た次の月が来 たあとで、「てピオロンセロ、ピオロンセロ」「ヴァイ オリン」[タイ語]において外来語に当たり、タイ語発 音をする]「の」。「黙って読んでいます。」「という記 事が」んー記事があります。記事、まあこの記事 がさらにあります。何に関してでしょうねえ。おそら くだいたいのところ女子、校、高校が楽器を買いま した。「ピオロンセロ」と「ヴァイオリン」[タイ語]に おいて外来語に当たり、タイ語発音をする]。		
177				ピオロンセロ。		
178			อ้อ น่าจะเป็นเครื่องดนตรีอะไรสักอย่างของ ตะวันตกแหละมังคะ [黙って読んでいます。] といへるは[日本語で発話する] อันนี้คงเป็นภาษา เก่า [笑う。]	うーん。おそらく何らかの西洋の楽器ですよ。じゃ ないですか。[黙って読んでいます。]「といへるは」こ れはきつと古い言葉ですよ。[笑う。]		
179				[笑う。]		
180			อ่า น่าจะประมาณว่า ปิออ ปิออลองเซโร[日本語で発話する] น่าจะเป็น ไวโอลิน[タイ語]において外来語に当たり、タイ 語発音をする] ที่มันเล็กกว่า	あー、おそらくだいたいのところは、「ピオロ、ピオ ロンセロ」おそらく小さめの大きさをした「ヴァイオ リン」[タイ語]において外来語に当たり、タイ語発音 をする]ですよ。		
181				ああ。		
182			ちいさ ちいさなるものにして[日本語で発話する] อะไรประมาณนี้ ซึ่งก็แปลว่า อ้อ ไวโอลิน[タイ語]において外来語に当たり、タイ 語発音をする] เริ่มเป็นที่รู้จักมากขึ้น แต่ก็ไม่ใช่แค่ ไวโอลิน[タイ語]において外来語に当たり、タイ 語発音をする] ก็มีเครื่องดนตรีที่ชื่อ ปิออลองเซโร[日本語で発話する] ด้วย แต่ว่าก็ คล้าย ๆ กับ ไวโอลิน[タイ語]において外来語に当たり、タイ 語発音をする] เครื่องดนตรีที่คล้าย ๆ ไวโอลิน[タイ語]において外来語に当たり、タイ 語発音をする] น่าจะเริ่มได้รับความรู้จักมากขึ้น	「ちいさ、ちいさなるものにして」何かこんなところ、 つまり、まあ訳すと、えー、「ヴァイオリン」[タイ語] において外来語に当たり、タイ語発音をする]は知 られるようになり始めました。しかし、「ヴァイオリ ン」[タイ語]において外来語に当たり、タイ語発音 をする]だけではなく、「ピオロンセロ」という楽器も あります。ですが、「ヴァイオリン」[タイ語]において 外来語に当たり、タイ語発音をする]とよく似ていま す。「ヴァイオリン」[タイ語]において外来語に当 たり、タイ語発音をする]によく似た楽器ですよ。お そらくもつと知られるようになり始めました。		
183	pp.13-14	ヴァイオリンとチェロを取り違えているあたりは、やはり、この2つの楽器を 知らないで書いたものであることがわかる。	อ้อ และเชลโล่を取り違えている やはりこのふたつの楽器を知らないで書いたもの であることがわかる[日本語で発話する] อ้อ 楽器を知らない[日本語で発話する] ไวโอลิน [タイ語]において外来語に当たり、タイ語発音をする] と เชลโล่取り違える 違える[日本語で発話する]	うーむ。「とチェロを取り違えている、やはりこのふ たつの楽器を知らないで書いたもの、であることが わかる」うーん、「楽器を知らない」「ヴァイオリン」 [タイ語]において外来語に当たり、タイ語発音をする]と 「チェロ」取り違える、違える」。		
184				うん。		
185			[スマートフォンに「ちがえる」と打ち込んで「違える」]に変換し、J-doradicで検索すると、「ちがえる」と いう読みと、เข้าใจผิด 「誤解する」という意味が得られた。] เข้าใจผิด เข้าใจผิด อ้อ ก็คือเครื่องดนตรี ไวโอลิน[タイ語]において外来語に当たり、タイ 語発音をする] กับ เชลโล่[タイ語]において外来語に当たり、タイ語発 音をする] น่าจะค่อนข้าง อ้อ มีการสับสน เพราะว่ามันคล้าย ๆ กันอยู่เหมือนกันหรือเปล่า 楽器を知らないで書いたもの であることがわかる 書いたものである かわたり[日本語で発話する] น่าจะประมาณว่าทั้งสองอันน่าจะ น่าจะมีคนที่แบบ ว่าไม่รู้อะไร	[スマートフォンに「ちがえる」と打ち込んで「違える」]に変換し、J-doradicで検索すると、「ちがえる」と いう読みと、เข้าใจผิด 「誤解する」という意味が得られた。] 誤解する、誤 解する。あー、要するに楽器の「ヴァイオリン」[タ イ語]において外来語に当たり、タイ語発音をする]と 「チェロ」[タイ語]において外来語に当たり、タイ 語発音をする]がおそらくかなり、えー、混乱が あって、似ていて同じようだから、でしょか。「楽 器を知らないで書いたもの、であることがわかる。 書いたものである、でわたり」おそらくだいたいの ところ、2つとも、おそらく知らないような人がいま した。		
186				うーむ。		
187			ความแตกต่างของสองอันนี้ หรือเปล่านะ	この2つの違いを、でしょか。		
188	p.14	外国の物を取り入れる場合、輸入品によってある程度そのものを認知 した後に、国産品の製作を始めるというのが一般的な順序だと思うが、こ こでは「ヴァイオリンを知ること」と「ヴァイオリンを作ること」がほぼ同時進行 という現象が起きている。	物を取り入れる場合[日本語で発話する] [黙って読んでいます。] 程度のもをにん にんしたあとに 始めるというのが 一般的な順序だと思うが 知ることヴァイオリンを作る[日本語で発話する] [黙って読んでいます。] อ้อ พูดถึงชาวต่างชาติ 外國の[日本語で発話する] เมื่อ ไม่ใช่ 外國の物を取り入れる[日本語で発話する] ใน กรณีที่เขา ของจากต่างประเทศเข้ามา によってある程度 製作の[日本語で発話する]	「物を取り入れる場合」。「黙って読んでいます。」「程 度のもをにん、にんしたあとに、始めるというの が、一般的な順序だと思うが、知ることヴァイオリ ンを作る」。「黙って読んでいます。」「うーむ。外国人 について話しています。「外国の」いや、違いま す。「外国の物を取り入れる」とる場合に、外国か ら入ってきた物「によってある程度、製作の」。		
189				うん。		
190			[黙って読んでいます。] มีปรากฏการณ์ ที่เป็น เมื่อ 同時進行 進行同時進行 同時[日本語で発話する] ช่วงเดียวกัน 進行 進行[日本語で発話する] พัฒนา แต่ภาษาไทยก็ คือ 進行[日本語で発話する] [スマートフォンに「しんこう」と打ち込んで「進行」]に変換し、J-doradicで検索すると、「しんこう」と いう読みと、ความก้าวหน้า 「前に進むこと」という意味が得られた。] 前に進む こと。	[黙って読んでいます。]「同時進行という現象」現象 があります。という、えー、「同時進行、進行同時 進行、同時」ときを同じくして、「進行、進行」発展。 ですが、タイ語はというと、「進行」。「スマートフォ ン」に「しんこう」と打ち込んで「進行」に変換し、J-d oradicで検索すると、「しんこう」という読みと、 ความก้าวหน้า 「前に進むこと」という意味が得られた。] 前に進む こと。		
191				うん。		
192			ห้พร้อม 進行[日本語で発話する] อ้อ อะไรสัก อย่างแล้วก็ตามอ้อ เื่อ ความสนใจในการที่ คนญี่ปุ่นจะรู้จัก ไวโอลิน[タイ語]において外来語に当たり、タイ 語発音をする] กับ ที่ทำ ไวโอลิน[タイ語]において外来語に当たり、タイ 語発音をする]	「ほぼ同時、進行」ああ、なんらかの。それから、 述べているのは、えー、日本人が知ること の「ヴァイオリン」[タイ語]において外来語に当たり、 タイ語発音をする]の進歩と、「ヴァイオリン」[タイ 語]において外来語に当たり、タイ語発音をする]を つくること。		
193				んー。		
194			ค่อนข้างไปพร้อม ๆ กัน	かなり一緒に進みました。		
195				うーん。		

196	p.14	これは明治期の人たちが西洋文化・文明の摂取に、いかに積極的であったかを示す一例であろう。	ฉือ [黙って読んでいる。] いかに積極的にあったが いかに [日本語で発話する] [スマートフォンに「いかに」と打ち込んでJ-doradicで検索すると、「しんこう」という読みと、อย่างไร「どのように」、ทำไม「どうして」、เพราะอะไร「なぜ」と表示された。] ที่ อย่างไรทำอะไร ทำไมเพราะอะไร	うーん。[黙って読んでいる。]「いかに積極的にあったが、いかに」[スマートフォンに「いかに」と打ち込んでJ-doradicで検索すると、「しんこう」という読みと、อย่างไร「どのように」、ทำไม「どうして」、เพราะอะไร「なぜ」と表示された。]ふー。どのように、どのようににする、どうして、なぜ。「いかに積極的に」[黙って読んでいる。]「これは明治期の人たちが、さいよう文化、さいしゅ、文明」おそらく受ける、こと、西洋文化。「明治」期の人、というのはちよつと話し続けているのかあるいはなにか、指し示しています。その時期の人が受けていたことを指し示しています。あー、文明を受容する、入ってきた西洋の文化を受容します。		
197					うーん。	
198			[黙って読んでいる。] จาก อะไรสักอย่าง	[黙って読んでいる。]何らか、から。		
199	p.14	明治20年に「日本新製 バイオリン」を生み出した京都の福井・小笹両氏の取組みは、関西でのヴァイオリン製作の最初である。	明治20年に 生み出した京都 [日本語で発話する] [黙って読んでいる。] ヴァイオリン [タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] 製作の最初 [日本語で発話する] [黙って読んでいる。] เป็นครั้งแรกที่เริ่มทำ	「明治20年に、生み出した京都」[黙って読んでいる。]「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]「製作の最初」[黙って読んでいる。]「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]を「関西」でつくり始めたのは初めてです。[黙って読んでいる。]「生み出した京都の福井」ああ、これは人の名前です。なんとかさん。ああ、さっき読んできた人、つまり、「福井」さんと、「く」なんとかさん。		
200			ฉือ ฉือ เป็นชื่อคุณ คุณอะไรสักอย่าง ฉือ คุณที่เมื่อก่อนไปแล้วก็คือคุณ 福井 [日本語で発話する] ก้น [日本語で発話する] อะไรสักอย่าง		うん。	
201			เขาเริ่มทำ	彼らは「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]を「関西」で初めてつくり始めました。		
202			เป็นครั้งแรก		んー。	
203			[黙って読んでいる。] ใน	[黙って読んでいる。]内。		
204					そういうことなら、関西ではないところでもつくっていてもいい、ということですよ。関西では初めてだけど、関東で先につくっていてもいい、とか。	
205			ฉือ ฉือ เป็นไปได้ ไม่แน่ใจว่าภาคอื่นทำหรือยังแต่ว่าเขาพูดถึง	え、うーう、あり得ます。ほかの地域でつくっていたかまだかははっきりしませんが「関西」箇所についてだけ話しています。		
206					ああ、そうですか、はい。	
207			แต่ตัวครั้งแรกของที่เขาสร้างที่ญี่ปุ่น	ですが、はじめのもの日本で生産された[「日本新製部分への言及」]。つまり、20年の時期に、「明治」20年。		
208			[「日本新製部分への言及」] ก็คือในช่วงปีที่ฉือฉือ		うーん。はい。	
209	p.14	日本全体では、明治13年(1880)頃から幾人かの人が製作に挑戦している。	[黙って読んでいる。] ฉือ ทำญี่ปุ่น [黙って読んでいる。] ฉือ แต่เขา ต่อมาเขาก็บอกว่า	[黙って読んでいる。]うーん、日本中。[黙って読んでいる。]うー、でも、これ、続けて述べているのは、でも、この日本中でおそらくつくり始めました、13年の時期から。訳すとおそらくほかのところがあります。おそらく「関西」の前につくり始めました。ですが、「関西」は20年に始めました。		
210			แต่ตัวทำญี่ปุ่นนี้ น่าจะเริ่มทำตั้งแต่ช่วงปีที่ฉือฉือ		ふーん。	
211			ฉือ แต่เขาบอกว่า	うーむ、でも、述べているのは、「挑戦してる」分らないのは、成功しているか。でも、まあきっと成功しても良いです。でも、まあおそらく成功してます。		
212			ไม่รู้ว่าสำเร็จไหมแต่ก็อาจจะสำเร็จก็ได้ แต่ก็น่าจะสำเร็จ		うん。	
213			เพราะว่ามันดังหลายปี ตั้งแต่ฉือฉือ	何年も前からですから、13年以来。		
214	p.14	しかし、試作品の段階に止まらず、製品化して流通・販売するまでに発展させたのは、ごく少数の人たちである。	しかし、けん作品のだんに止まらず	「しかし、けん作品のだんに止まらず、製品化して流通販売するまでさせたのはごく」ああ、つまり、の人、「ごく」ああ、つまり、つくってみせた、でも、つくり終えた人はごくわずかしかりません。		
215			製品化して流通販売するまでさせたのはごく [日本語で発話する] ฉือ ก็คือคนที่		ふーん。	
216	p.14	その中で、名古屋の鈴木政吉(注24)が突出した存在で、後に日本を代表するヴァイオリン・メーカーとなる。	その中で名古屋の鈴木 だした存在で	「その中で名古屋の鈴木、だした存在で、あとにほんを」それから、そのつくり終えた人の中に鈴木、「さん」[タイ語的に発音する]という名前の人がいました。彼は、後に日本の代表となる、「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]制作者になりました。		
217	p.14	この鈴木製ヴァイオリンの出現が、明治期のヴァイオリン流行を推進する大きな要素となったと考えられる。	หลังจากในบรรดาคนที่ทำสำเร็จนั้นก็มีคนที่ชื่อ			
218			หลังจากในบรรดาคนที่ทำสำเร็จนั้นก็มีคนที่ชื่อ		うん。	
219			หลังจากในบรรดาคนที่ทำสำเร็จนั้นก็มีคนที่ชื่อ	かなり「boom」[タイ語において外来語に当たる]。かなり、なんというか。[黙って読んでいる。] えー、役割があります、えー、有名です。		
220					うーむ。	
221			ก็คือ [黙って読んでいる。] เป็นที่นิยมในสมัย	要するに。[黙って読んでいる。]「明治」時代において好まれていました。		
222			明治 [日本語で発話する]		はい。	
223			มาก ๆ เหมือนกัน เพราะว่า ฉือ ไม่ใช่ คนที่ชื่อ	とっても、同じように、というのは、えー、違う。「鈴木」[タイ語的に発音する]という名前の人はですね、彼は「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]「maker」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]つまり、その後彼は日本の代表になりました。		
224					んー。	

225		<p>ฉิม ทรัยชั่น สวีชีน [日本語で発話する] [スマートフォンに「すいしん」と打ち込んで「推進」に変換し、J-doradicで検索すると、「すいしん」という読みと、การสนับสนุน 「支持すること」という意味が得られた。] เหนทาง อะไร สนับสนุน อะ 推進する大きな要素 [日本語で発話する] องค์ประกอบหรือแปล่า [スマートフォンに「ようそ」と打ち込んで「要素」に変換し、J-doradicで検索すると、「ようそ」という読みと、องค์ประกอบ 「要素」という意味が得られた。] องค์ประกอบ เป็นสาเหตุใหญ่ ๆ ที่ทำให้อาวัวโอลิน [タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] พรหมฉายในสมัย 明治 [日本語で発話する] ค่ะ ฉิม ก็มาจากคุณ 鈴木 [タイ語的に発音する] นี้เอง</p>	<p>うーむ。「つうしん、すいしん」。[スマートフォンに「すいしん」と打ち込んで「推進」に変換し、J-doradicで検索すると、「推進」という読みと、การสนับสนุน 「支持すること」という意味が得られた。]何の道を開いた、指示する、ああ。「推進する大きな要素」要素でしょうか。[スマートフォンに「ようそ」と打ち込んで「要素」に変換し、J-doradicで検索すると、「ようそ」という読みと、องค์ประกอบ 「要素」という意味が得られた。]要素、大きな原因です。「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]を「明治」時代に広めました。うーん。まあまさに「鈴木」[タイ語的に発音する]さんからです。</p>		
226				[笑う。]	
227		[黙って読んでいる。]	[黙って読んでいる。]		
228				休む、休みましょうか。[笑う。]	
229		[笑う。] พัก พักก่อนก็ได้อะ	[笑う。] 休む、まずは休んでもいいですね。		
230				休んでもいい。	
231					しばらく休憩したのち、再開。
232				はい、どうぞ。	
233	p.14	3 たくさんあったviolinのカタカナ表記	たくさんあった [日本語で発話する] violin [タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] のカタカナ 表記 [日本語で発話する]	「たくさんあった」[violin] [タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] 「のカタカナ、表記」。	
234				うーん。	
235		ก็ violin [タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] น่าจะมีเขียน คاتاカナ [日本語で発話する] หลายแบบ เพราะว่าญี่ปุ่นน่าจะไม่มีเสียงตัว vi [タイ語には「v」音がなく、「wi」と発音した]	んー、「violin」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] おそらく「カタカナ」で書く方法は多くの様式があります。それは日本語はおそらくvi [タイ語には「v」音がなく、「wi」と発音した] の音の字がないからです。		
236				おお。	
237		ฉิม แต่ถ้ามีหลายแบบก็ไม่น่าจะใช่แค่ตัว vi [タイ語には「v」音がなく、「wi」と発音した]	うーん、ですが、もし多くの様式なら、vi [タイ語には「v」音がなく、「wi」と発音した] の字だけではありそうにありません。		
238				うーん。	
239	p.14	明治期に日本に受け入れられた西洋楽器の名称は、2種類ある。	明治期ににほんに受け入れる 名称は [日本語で発話する] เออ ชื่อเครื่องดนตรี ตะวันตกที่คนญี่ปุ่นรับมาในช่วง 明治 [日本語で発話する] มีสองชนิด	「明治期ににほんに受け入れる、名称は」えー、「明治」期に日本人が西洋から受け入れた楽器の名前は2種類あります。	
240				ふーん。	
241	p.14	外来語として音をそのままカタカナで表記するもの(例えばピアノ)と、訳語として漢字に置き換えて表記するもの(例えば洋琴)である。	がいらいとしておとを そのままか [日本語で発話する] ฉ้อ ก็คือออก เสียง ก็เขียน คاتاカナ [日本語で発話する] [黙って読んでいる。] ตาม ก็เขียนด้วย คاتاカナ [日本語で発話する] ตามที่ออกเสียงใน ภาษา ต่างประเทศ อย่างเช่น เปียโน [タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]	「がいらいとしておとを、そのままか」うーう、つまり、発音する。んー、「カタカナ」を書きます。[黙って読んでいる。]したがって、「カタカナ」を使って、外国の、言葉の発音するのにしたがって、たとえば、「ピアノ」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]。	
242				うーん。	
243	p.14	つうやくとして [「訳語として」を読み上げた] ฉ้อ แล้วก็มีอีกแบบก็คือแปลก่อนแล้วค่อยเขียนเป็น 漢字 [日本語で発話する]	「つうやくとして [「訳語として」を読み上げた]」ああ、それに、ほかの様式もあります。訳してから「漢字」で書きます。		
244				うん。	
245		อย่างเช่น よう ぎ [「洋琴」を読み上げようとしている] [笑う。] こと ようき [「洋琴」を読み上げようとしている]	たとえば、「よう、ぎ [「洋琴」を読み上げようとしている]」。[笑う。]「こと、ようき [「洋琴」を読み上げようとしている]」。		
246				何の楽器なんですか [笑う。]	
247		[笑う。]	[笑う。]		
248				んー、分からない [笑う。]	
249		อะไรสักอย่าง [笑う。]	なんかです。[笑う。]		
250				はい。[笑う。]	
251		น่าจะเป็เครื่องดนตรีสักอย่าง ฉ้อ แต่ว่าคือเป็น เครื่องดนตรีตะวันตกที่เขากอนมา	おそらく何かの楽器です。ああ、でも、彼が引き合いに出した西洋の楽器でなくてはなりませんね。		
252				はい。	
253		อาจจะเป็ชื่อของ วัวโอลิน [タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] ก็ได้อะ แต่ก็ไม่แนใจ	たぶん「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] の名前でも良いんですけどね。えっ、でも、はっきりしません。		
254				[笑う。]	
255	p.14	さらに、この両方の名称を持っていた楽器と、片方だけの楽器(ほとんどの場合カタカナ表記の方だけ(注25)で、例えばサクソフオーン)があった。	[笑う。] นอกจากนี้ ีทั้ง 2 อย่างนี้ หนึ่งคือชื่อของ เครื่องดนตรีที่มาจากตะวันตก และอีกอย่างคือชื่อของ เครื่องดนตรีที่มีชื่อแบบเดี่ยว อย่างเช่น ซักโซโฟน	[笑う。]このほかに、「この両方の名称を持っていた楽器と、かた、ほうだけの楽器、ほとんど、ばサクソフオーンこの両方の」うーん。2種類の名前を持っている楽器と1種類しか名前のない楽器、たとえば、	
256				うん。	
257		ซักโซฟออน [タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] ฉ้อ ก็คือมีสอง มี เครื่องดนตรีที่มีชื่อสองแบบด้วยแล้วก็ มี เครื่องดนตรีที่มี ชื่อแค่อย่างเดียด้วย	「ซักโซฟออน」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] ああ、つまり、2つあります。あります。2種類の名前がある楽器もあるしそれに1種類しか名前がない楽器もあります。		
258				うん。	
259	p.14	しかし、漢字表記の方は時代を経るとともに次第に使用されなくなり、現在、西洋楽器の名称はすべてカタカナ表記になっている。	แต่ว่า 漢字表記のかた のほうは時代をた たる ともにじたいに使用 [日本語で発話する] ฉ้อ แต่ว่าเครื่องดนตรีที่มี ที่เขียนด้วย 漢字 [日本語で発話する] ก็ ใช้น้อยลงตาม แต่ละ สมัยก็ค่อย ๆ น้อยลงไป	ですが、「漢字表記のかた、のほうは時代をた、たる、ともにじたいに使用」ああ、ですが、ある楽器、「漢字」で書くのは、んー少なくなっていくました。時代ごとに次第に減っていきました。	
260				うん。	
261		[「現在、西洋楽器の名称はすべてカタカナ表記になっている」の部分黙って読んでいる。] ใน ปัจจุบันชื่อเครื่องดนตรีตะวันตกก็เขียนเป็น คاتاカナ [日本語で発話する] หมดแล้ว	[「現在、西洋楽器の名称はすべてカタカナ表記になっている」の部分黙って読んでいる。] 現在 西洋の楽器の名前はすべて「カタカナ」で書くようになりました。		

290			น่าจะมันอย	おそらく少ししかいません。	
291					ふーん。
292			อืม ก็เพราะเขามองว่ามันกลืนกัน เพราะฉะนั้นคนที่เรียก ไวโอลิน[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] ก็น่าจะ อยู่ในช่วงสมัยก่อนด้วย เช่นกัน กลืนกับปกติที่น่าจะเรียกเป็น 漢字[日本語で発話する] มากกว่า	うーん。というのは、述べているのは、逆だからです。したがって、「ไวโอลิน」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]と呼ぶ人はおそらく、前の時代にもいました。通常はといえば「漢字」でより多く読んでいました。	
293					うーん。
294	p.14	提琴とはそもそも中国の胡弓系の楽器を指す言葉で、楽器とともに江戸時代に渡来し、明清楽(注26)に使用する楽器として、日本人に親しまれるようになった。	そもそも中国[日本語で発話する] เออ 楽器をしめすことばで[日本語で発話する] คำว่า 提琴[日本語で発話する] นั่นแต่เดิมแล้วเป็นคำที่ ใช้ขึ้นเครื่องดนตรีที่เป็น อืม น่าจะเป็นเครื่องที่ไม่มี อันนี้น่าจะใช้เรียก คันทัก ไวโอลิน[タイ語において外来語に当たり、タイ 語発音をする][「胡弓」を解釈しようとしている]	「そもそも中国」えーと「楽器をしめすことばで」「提琴」という言葉は、元々はといった楽器を指すのに使う言葉でした。うーん。おそらく木がある道具、これはおそらく「ไวโอลิน」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]の弓を呼ぶのに使います[「胡弓」を解釈しようとしている]。	
295					[笑う。]
296			แต่ว่าข้างหน้าคืออะไรไม่รู้ [笑う。]	ですが、前は何か分かりません。[笑う。]	
297					はい。
298			แต่ น่าจะเป็น เครื่องไม้ที่มีเครื่องสายที่ใช้ไม้ด้วย	ですが、おそらくは、木材で弓があつて気も使われています。	
299					ふーん。
300			[スマートフォンに「胡」と指で書き、J-doradicで調べたが、検索結果は得られなかった。] อืม ไม่มี ในพจนานุกรมด้วย [黙って読んでいる。] อืม ก็ คือ [日本語で発話する][「胡」を読もうとしている] อะไรสักอย่าง	[スマートフォンに「胡」と指で書き、J-doradicで調べたが、検索結果は得られなかった。]うーん。1 字だけだと辞書にはありません。[黙って読んでいる。]うーん。「く、こ」「胡」を読もうとしている]何かそんなんです。	
301					うん。
302			เอาเป็นว่าน่าจะ เป็น เออ เครื่องดนตรีแนวเดียวกับ ไวโอลิน[タイ語において外来語に当たり、タイ 語発音をする] ซึ่งจริง ๆ แล้วก็เป็นค่างั้น	ということにしましょう。えー、「ไวโอลิน」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]と同じ線の楽器、実際には中国の言葉です。	
303			楽器とともに江戸時代に[日本語で発話する] ภา วาท [日本語で発話する] กั้น らい[日本語で発話する] น่าจะแปลว่ามาถึง ช่วง 江戸[タイ語的に発音する]	「楽器とともに江戸時代に」「わたくし」と「らい」、おそらく訳すと行き着きます。「江戸」[タイ語的に発音する]期に。	
304					はい。
305			めいせいがかく[日本語で発話する] [笑う。] に使用 楽器として[日本語で発話する] เครื่อง ดนตรีที่ใช้ ไม้ ในดนตรีอะไรสักอย่าง めい[日本語で発話する] [スマートフォンに「めい」と打ち込んで「明」に変換し、「清」を指で書きJ-doradicで調べたが、検索結果は得られなかった。] ไม่มี น่าจะเป็นชื่อเฉพาะ	「めいせいがかく」[笑う。]「に使用、楽器として」使う楽器、使う何うらかの音楽「めい」に。[スマートフォンに「めい」と打ち込んで「明」に変換し、「清」を指で書きJ-doradicで調べたが、検索結果は得られなかった。]ありません。おそらく特殊な名詞です。	
306					はい。
307			น่าจะ เป็นวงดนตรีอะไรสักอย่าง อืม 親しまれるようになった[日本語で発話する] เป็นที่รู้จัก [黙って読んでいる。] อืม ก็คือ ไวโอลิน[タイ語において外来語に当たり、タイ 語発音をする] นั่น จริง ๆ แล้วก็เป็นคำที่ใช้เรียก เออ เครื่องดนตรีชนิดที่ใช้ไม้แล้วก็ มาถึงช่วง 江戸[タイ語的に発音する] เอาไว้ใช้ใน [黙って読んでいる。] ดนตรีประเภท めいせい[日本語で発話する] อะไรสักอย่าง ก็ เลยกลายเป็นคนญี่ปุ่นก็เลยรู้จัก ในฐานะที่เขาเอาไป เล่นเครื่องดนตรีประเภทนี้	おそらく音楽領域の何かです。うーん。「親しまれるようになった」知られるようになりました。[黙って読んでいる。]うー。要するに、「ไวโอลิน」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]は、実際には呼ぶのに使われる言葉で、えー、気を使った楽器の種類で。それと、「江戸」[タイ語的に発音する]期にいたって、使われる。[黙って読んでいる。]「めいせい」などとかの種類の音楽、それで、日本人がそれにより知るようになりました。この種の楽器を使って演奏する立場となつて。	
308					はい。
309	p.14	明治初期には明清楽が特にもてはやされた時期があり、提琴という言葉もその音楽と共に広く認識されていた。	明治初期[日本語で発話する] ในช่วง 明治[日本語で発話する] ช่วงแรก เออ めいせいがかく[日本語で発話する] ที่ น่าจะ เป็นวงดนตรีอะไรสักอย่าง อืม ก็คือ ไวโอลิน[タイ語において外来語に当たり、タイ 語発音をする] นั่น จริง ๆ แล้วก็เป็นคำที่ใช้เรียก เออ เครื่องดนตรีชนิดที่ใช้ไม้แล้วก็ มาถึงช่วง 江戸[タイ語的に発音する] เอาไว้ใช้ใน [黙って読んでいる。] ดนตรีประเภท めいせい[日本語で発話する] อะไรสักอย่าง ก็ เลยกลายเป็นคนญี่ปุ่นก็เลยรู้จัก ในฐานะที่เขาเอาไป เล่นเครื่องดนตรีประเภทนี้	「明治初期」「明治」期の初期、えー、「めいせいがかく」が特にもてはやされたときが「ああ。つまり、「明治」の初期に、この種の音楽が好まれて、時期に、えー、この種の音楽がかなり好まれていた時期です、特別に。	
310					ふーん。
311			ていきんということばもその 音楽とともに広く認識[日本語で発話する] ทำใ ห้ คำ ว่า ていきん[日本語で発話する] นี้ก็คือ [黙って読んでいる。] เป็นที่รู้จัก ในหมู่กว้าง ๆ พร้อมกับเครื่องดนตรีชนิดนี้ด้วยเช่นเดียวกัน	「ていきん」ということばもその、音楽とともに広く認識」言葉を使います。この「ていきん」という言葉、つまり、[黙って読んでいる。]知られています、広い中で、この種の音楽とともに、一緒に。	
312	p.14	つまり、明治時代において提琴はヴァイオリンではなく、明清楽に使う胡弓の一種であった(注27)。	หรือก็คือ 明治時代において ではなく ไวโอลิน ていきんはไวโอลินではなく この一種であった[日本語で発話する] หรือก็คือ ในช่วงสมัย 明治[日本語で発話する] นั่น [黙って読んでいる。] เออ ไม่ใช่ หรือก็คือเออ หรือก็คือ ていきん[日本語で発話する] ในสมัย 明治[日本語で発話する] นั่นไม่ใช่ ไวโอลิน[タイ語において外来語に当たり、タイ 語発音をする] แต่เป็นเครื่องดนตรีชนิดหนึ่งที่ใช้ ในการเล่นดนตรี ่มีชื่อ[日本語で発話する] อันนี้	もしくはつまり、「明治時代において、ではなく、ไวโอลิน、ていきんはไวโอลินではなく、この一種であった。もしくはつまり、「明治」時代の時期に。[黙って読んでいる。]えー、違います。もしくはつまり、いや、あるいはつまり、「明治」時代の「ていきん」は「ไวโอลิน」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]ではありませんでした。ですが、使われる楽器の一種でした。これの「めいせい」音楽の演奏の中です。	
313					はい。
314	pp.14-15	その提琴がヴァイオリンの意味を持つようになった年代は明確ではないが、大正末期から使用例が現われ(注28)、最も多く使われたのは昭和戦前期のようである。	[黙って読んでいる。] ไวโอลิน意味を持つような時代 明確では そのていきんがไวโอลินの そのていきんがไวโอลินの[日本語で発話する] ที่ เขาก็มากกว่าไม้ขีดจนกว่าช่วงปีสมัยใหม่ ที่ ていきん[日本語で発話する] มีความหมายว่า ไวโอลิน[タイ語において外来語に当たり、タイ 語発音をする] แต่ว่า	[黙って読んでいる。]「ไวโอลิน意味を持つような時代、明確では、そのていきんがไวโอลインの、そのていきんがไวโอลインの」んー、述べているのは、はっきりしていないのは、「ていきん」が「ไวโอลิน」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]の意味を持ったのは何年の時期であったか。しかし、	
315					うん。
316			だい せい まつ だいしょうまつ[「大正末」を読もうとしている] [スマートフォンに「だいしょうまつ」と打ち込んだが、 漢字変換の候補が出ない。] だいしょうまつ[日本語で発話する] ฉะนั้นไม่ใช่ だいせい [スマートフォンに「だいせいまつ」と打ち込んだが、 漢字変換の候補が出ない。] ไม่ใช่ ดั้งเดิม まつ[日本語で発話する] [スマートフォンに「だい」と打ち込んで「大」に変換し、「た ださい」と打ち込んで「正しい」に変換し「し い」を消し、「まつ」と打ち込んで「末」に変えて「大 正末」をJ-doradicで検索したが、結果は得られ ない。] อืม ไม่มี [笑う。]	「だい、せい、まつ、だいしょうまつ」「大正末」を読もうとしている。」「スマートフォンに「だいしょうまつ」と打ち込んだが、漢字変換の候補が出ない。」「だいしょうまつ」あつ、違います。「だいせいまつ」。」「スマートフォンに「だいせいまつ」と打ち込んだが、漢字変換の候補が出ない。」違います。「たださい、まつ。」「スマートフォンに「だい」と打ち込んで「大」に変換し、「たださい」と打ち込んで「正しい」に変換し「し」を消し、「まつ」と打ち込んで「末」に変えて「大正末」をJ-doradicで検索したが、結果は得られない。」うーん。ありません。[笑う。]	
317					[笑う。]

318		使用例が「日本語で発話する」ก็คือมีการ อ้อ พูดถึงความหมายของคำว่า เตいきん「日本語で発話する」ก็คือไม่ได้บอกชัดว่ากลายเป็น ไวโอลิน「タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする」ตั้งแต่เมื่อไรแต่ก็บอกว่า มีตัวอย่าง ในการใช้ปรากฏตั้งแต่ช่วง เฒ่า だいせいまつ「日本語で発話する」อะไรสักอย่าง ก็คือช่วงนี้ แล้วก็	「使用例が」つまり、がある。うー、「ていきん」の言葉の意味を言うなら、つまり、「ワイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]に似ているとははっきりは述べていません。いつからなのか。でも、述べているのは、期から登場した例があります。えー、「だいせいまつ」なんとかです。つまり、この時期、それから、		
319				うん。	
320		最多多く使われ 使わ 使われたの めいわせんまえきのよう「日本語で発話する」แล้วก็เหมือนว่า อ้อ ในช่วงที่ไ้มากที่สุดก็คือช่วง ก่อนสงคราม เมือว「日本語で発話する」เออ มิ่ว มิ่ว「日本語で発話する」นั่นเอง	「最多多く使われ、使わ、使われたの、めいわせんまえきのよう」それから、のように思われます。うーむ。最多多く使われた時期はというと「めいわ」戦争前、いや、「みわ、みわ」自体です。		
321	p.15	明清楽の隆盛期から約半世紀が過ぎ、もはやその音楽も使用楽器も忘れ去られてしまった。その時期に改めてヴァイオリンの訳語として、カタカナ表記と併用されるようになったと考えられる。	「めいせいがつくの」あ。期、何の期でしょう。[スマートフォンに「隆」と指で書く。]「えー、「しゅうせい」、なんでしょう。えー、「せい」。[スマートフォンに「隆」を残したまま「盛」を指で書き「隆盛」をJ-doradicで検索すると、「りゅうせい」という読みと、เจริญรุ่งเรือง「繁栄する」という意味が得られた。]「りゅうせい、りゅうせい、りゅうせい、りゅうせい、めいせいがつこのりゅうせいからはん」[日本語で発話する] เฒ่า		
322				うん。	
323		約半世紀が過ぎ「日本語で発話する」ก็คือตั้งแต่ช่วงเจริญรุ่งเรืองของ ที่เครื่องดนตรี เมือว「日本語で発話する」นั่นเจริญตั้งแต่ หั่น「日本語で発話する」แล้วก็ผ่านไปช่วงครึ่ง ศตวรรษ ประมาณครึ่งศตวรรษ มอหยา มอหยา「日本語で発話する」ก็เริ่มเล่นวิธี เล่นของเครื่องดนตรีนั้น	「約半世紀が過ぎ」つまり、の繁栄期から、楽器「めいせい」が成長し「はん」から、それから、半世紀が過ぎて、おおよそ半世紀「もはや、もはやその音楽」んー、その学期の演奏の方法を忘れ始めました。		
324				ふーん。	
325		その時期に改めてヴァとして「日本語で発話する」 เฒ่า เพราะเขาสึกเฒ่า	「その時期に改めてヴァ、として」えーと、忘れましたので、それで、「その時期に改めてヴァイオリン」「つうご、つうご」[訳語]を読もうとしている」訳された言葉、もう一度、[「カタカナ表記と併用されるようになったと考えられる」]の部分を読もうとしている。うーん。[スマートフォンに「併用」と指で書き、J-doradicで検索すると、「へいよう」という読みと、การใช้ทั้งสองอย่าง「2種類とも使うこと」という意味が得られた。]「へいよう」[日本語で発話する]		
326				うん。	
327		การใช้ทั้งสองอย่าง されるようになった「日本語で発話する」 ก็เลยกลายเป็นว่า ใช้ทั้ง คัทาคานา「日本語で発話する」と「日本語で発話する」 อ้อ ก็เลยใช้ คัทาคานา「日本語で発話する」 ด้วยเหอ ใช้ทั้งสอง ไวโอลิน「日本語で発話する」 อ้อ พอคนเริ่มที่จะเล่น สิม สิมวิธีเล่นเครื่องดนตรี สิมวิธีใช้เครื่องดนตรีนั้นแล้วพอ เสร็จแล้วก็ つうご つうご「日本語で発話する」 ภาษาที่แปลมาจาก ไวโอลิน「タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする」 ก็เลยมาใช้ อ้อ เฒ่า เฒ่า เฒ่า คัทาคานา「日本語で発話する」 มาใช้ใหม่ เหอ	2種類とも使うこと、「されるようになった」それで、変わったのは、全て「カタカナ」を使います。「と」あ、それで「カタカナ」も使うのですか。2つとも使います。「ワイオリンのつうごとして」うーん、演奏することを人が忘れると、その楽器を演奏する方法を忘れる、その楽器を使う方法を忘れる。そして、そうってから、「つうご、つうご」[ワイオリン]「タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする」を訳してきた言葉も再利用する。えー、調整する、つまり「カタカナ」を新しく使うのですか。		
328				うーん。	
329	p.15	したがってヴァイオリンの名称は、まずカタカナ表記の時期があり、次に漢字表記との併用の時期を経て、再びカタカナ表記に戻る、という例外的な変遷を持っている。	[[「したがってヴァイオリンの名称は」]の部分を読もうとしている。]「したがってヴァイオリンの」[日本語で発話する] ชื่อของ ไวโอลิน「タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする」の名前。		
330				うん。	
331		まずカタカナ表記の時期「日本語で発話する」 ก็ มีช่วงที่ใช้ อ้อ ช่วงแรกเลยเป็นช่วงที่ใช้ คัทาคานา「日本語で発話する」 อ้อ อันนี้เขาพูดถึง สรูปหรือเปล่า แล้วก็「つ」[次に]と言いかけた] แล้วก็กลายเป็นใช้ ใช้ 漢字「日本語で発話する」 ผ่านไปแล้วก็กลับมาใช้ คัทาคานา「日本語で発話する」 อีกครั้งหนึ่ง อ้อ อ้อ ก็คือช่วงแรกใช้ คัทาคานา「日本語で発話する」 ใช้ 漢字「日本語で発話する」 แล้วก็กลับมาใช้ คัทาคานา「日本語で発話する」	「まずカタカナ表記の時期」んー使う時期がありました。ああ、初期ですわ「カタカナ」を使う時期の、ああ、これはまともを言っているのではないですか。それから、「つ」[次に]と言いかけた]「それから、使うようになりました。」「漢字」を使います。時間が過ぎてもう一度「カタカナ」を使います。うー、うー、つまり、初期に「カタカナ」を使い、「漢字」を使い、それから「カタカナ」を使うのに戻ります。		
332	p.15	さて、前述の通り明治期においてヴァイオリンは専らカタカナ表記された訳だが、その書き方は統一されなく、非常に多くのパターンが現われる。	「さて」.[黙って読んでいる。]「表記されたわきだ」がそのとき、書き方は統一されなく非常に多くのパターン]まあ、あります。うーん、「パターン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]があります。えー、「ワイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]の「カタカナ」表記における型がとてたくさんあります。「明治」、この前までに述べたように、		
333				うん。	
334	p.15	これは、基本的にカタカナ表記のルールが確立していなかったこと、violinの発音には日本語にない「V」の発音が含まれること、当時はワ行「ワウエヲ」がまだ使われていたこと、の3点が係わっている。	「これは基本的にカタカナ」んー、からではない。その、えー、「基本的に」えー、要するに、述べられている「カタカナ」というのは「カタカナ」を書くことにおいて基本的な原則がありません。[黙って読んでいる。]		
335				ふーん。	
336		อ้อ violin「タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする」の発音には日本語にない「日本語で発話する」 ในการออกเสียง violin「タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする」 นั่นคือ คำ v「タイ語では「v」の音を「w」で発音し、ここでは「ウ」と聞き取れる音で発音している」 ที่ไม่มีใน ภาษาญี่ปุ่นด้วย	うー、「violin」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]「の発音には日本語にない」その「violin」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]の発音において、v[タイ語では「v」の音を「w」で発音し、ここでは「ウ」と聞き取れる音で発音している]の字が日本語にもありません。		
337				はい。	
338		当時は「日本語で発話する」 [黙って読んでいる。] 3点が「日本語で発話する」 อ้อ ะ คัทาคานา「日本語で発話する」 โฉม เคยท่องคำนี้แล้วแต่ ว่า สิม「笑う。」	「当時は」.[黙って読んでいる。]「3点が」あ、「き」うわー、この言葉繰り返してきたけど忘れてしまいました。[笑う。]		
339				[笑う。]	

340		<p>ไอ้ [スマートフォンに「係」と指で書き、「り」をその後ろに打ち込んで「係り」をJ-doradicで検索すると、「かかわり」という読みが表示された。] かかわり[日本語で発話する] อี คากาวี かかわる3点がかかっている 当時はワコーワ ワ[日本語で発話する] ฟัง ที่ ภายังใช้ ていたこと[日本語で発話する] ก็คือตอนนั้นยังใช้ ยังมีการ ว[日本語で発話する] อยู่เพราะ の3点がかかっている[日本語で発話する] พัสดุต้น อี ก็เลยมีการแนะนำว่า จี้ มีความเกี่ยวข้องกับ เกี่ยวพัน ไม่ใช้ น่าจะ มีการ มีหลักในการใช้อะไร อย่างนี้หรือเปล่า</p>	<p>うわー。[スマートフォンに「係」と指で書き、「り」をその後ろに打ち込んで「係り」をJ-doradicで検索すると、「かかわり」という読みが表示された。]「かかわり」ああ、「かかわり、かかわる、3点がかかっている、当時はワコーワ、ワ」ふーむ。「がまだ使われている、ていたこと」つまり、そのときまだ使いました。まだ「ワ」行があったのですか。「の3点がかかっている」細心の、うー。つまり、なんといふかなんだかんだがあって、関係していることがあって、違う、おそらく、ありました。このような何か使用における柱があったのではないのでしょうか。</p>	
341				ふーん。
342		<p>มีการ ว วัว[日本語で発話する] อี สามจุดที่ เกี่ยวข้องกับ ก็เลยในช่วงนั้นเขายังมีการใช้ วัว วัว[日本語で発話する] อยู่เพราะ อี ว[日本語で発話する] ในวรรณ ว[日本語で発話する] มีทั้ง วัว วัว[日本語で発話する] แล้วก็ ว[日本語で発話する] ก็เลยทำให้มีสามจุดที่เขา จะเอามาเป็นคำ v[タイ語では「v」の音を「w」で発音し、ここでは「ウイ」と聞き取れる音で発音している] ได้</p>	<p>「วัว วัว」行がありました。うーむ。3点、関係した、それで、その当時まだ「วัว วัว」行を使用がありました。でしょうか。ああ、「ว」行の中には「วัว」それに「ว」の全てがありました。それで、v[タイ語では「v」の音を「w」で発音し、ここでは「ウイ」と聞き取れる音で発音している]の字を用いる3つのポイントがありました。</p>	
343	p.15	<p>その結果、バイオリン、バイオリン、バヨリン、バイヲリン、バイヲーレン、ブアヨリン、ファイオリン、ファイオハリン、ヴァイオリン、ヴァイオリン、ヴワイオリン、ヴワイヲリン、ヴァイヲリン、ヴハイオリン、ヴハイヲーレン、ヴワ井オリン、井オリンなどと、枚挙にいとまのない程の表記があったことが確認できる(注29)。</p>	<p>結果として、つまり、「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]の「カタカナ」がとてたくさんあること。ですが、ただ、たとえば「バイオリン」という字があるというだけではなく、「バ」1つだけではなく、「ブラ」、「ウ」もあります。「ヴワイオリン、ヴワイヲリン」[カタカナをなんとか読み上げようとしている]。</p>	
344				[笑う。]
345		<p>[笑う。] มีคำ บ[日本語で発話する] ด้วยแล้วก็ ว[日本語で発話する] ที่เติม てんてん[日本語で発話する]</p>	<p>[笑う。]「บ」の字もあります。それに「てんてん」を添えた「ว」もあります。</p>	
346				うん。
347		<p>บ วัว วัว[カタカナを読み上げようとしている]</p>	<p>「บ วัว、วัว[カタカナを読み上げようとしている]」。</p>	
348				[笑う。]
349		<p>[笑う。] วาโยลิน[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]</p>	<p>[笑う。]「วาโยลิน」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]。</p>	
350				うん。
351		<p>[[「オリンなどと、枚挙にいとまのない」の部分を読み始める。] อี ก็ อี オリンなどと[日本語で発話する] อี ไม้ ไม้[日本語で発話する] [笑う。] ไม้ ไม้[日本語で発話する] อี [スマートフォンに「枚挙」と指で書き、J-doradicで検索すると、「まいきよ」という読みと、การนับไม่ ทีละขั้น ทีละอย่าง 「ひとつずつ少しずつ数えること」という意味が得られた。] ไม้[日本語で発話する] การนับไม่ ทีละขั้นทีละอย่าง อะ</p>	<p>[[「オリンなどと、枚挙にいとまのない」の部分を読み始める。] うー、んー、うー、「オリンなどと」うーん、「まい、まいきよ」。[笑う。]「まい、いまい」うーん。[スマートフォンに「枚挙」と指で書き、J-doradicで検索すると、「まいきよ」という読みと、การนับไม่ทีละขั้น ทีละอย่าง 「ひとつずつ少しずつ数えること」という意味が得られた。]「まいきよ」1つずつ少しずつ数えることのこと、あ。</p>	
352				ん。
353		<p>[検索画面に「枚挙に違がない」文字を見つけ、J-doradicで検索すると、「まいきよにいとまがない」という読みと、เอะจนนับไม่หั่นไม่ไหว 「多すぎて数え切れない」という意味が得られた。] ไม้ ไม้[日本語で発話する] เอะจนนับไม่หั่นไม่ไหว ก็คือมีรูปแบบการเขียนที่ เอะจนจนนับไม่หั่นไม่ไหว</p>	<p>[検索画面に「枚挙に違がない」文字を見つけ、J-doradicで検索すると、「まいきよにいとまがない」という読みと、เอะจนนับไม่หั่นไม่ไหว 「多すぎて数え切れない」という意味が得られた。]「まいきよにいとまがない」多すぎて数え切れない、つまり、とてもたくさん書き方の型があって数えることができません。</p>	
354	p.15	<p>中でも、拗音に用いる「ャ・ユ・ヨ」のように「ワ」を小さく書く「ヴワイオリン、ヴワイヲリン」等は、少々奇異な感じを受ける一方で、表記の苦労がしのばれるものである。</p>	<p>「中でも」。「黙って読んでる。」「中でも」。「スマートフォンに「拗音」と指で書き、J-doradicで検索すると、「ようおん」という読みと、เสียงพยัญชนะ ควบกล้ำในภาษาญี่ปุ่น 「日本語における二重母音の子音」という意味が得られた。]ふ。「ようおん」日本語における二重母音の子音。「にようじいる、のようにワを小さく書く」ああ、それから、これらの中で子音がある、二重母音の子音の使用があります。日本語において、ですか、つまり、「やゆよ」を一緒に使って、たとえば「ワイオ」で小さな「ワ」を作ります。日本語にも同じく存在する「やゆよ」のように。</p>	
355				はい。
356		<p>少々きいな感じを受ける一方で きい き[日本語で発話する] [スマートフォンに「奇異」と指で書き、J-doradicで検索すると、「きい」という読みと、แปลกประหลาด 「奇妙な」という意味が得られた。] ไม้ ไม้[日本語で発話する] แปลกประหลาด อี 苦労がしのばれるしのぼる[日本語で発話する]</p>	<p>「少々き、いな感じを受ける一方で、きい、き」。「スマートフォンに「奇異」と指で書き、J-doradicで検索すると、「きい」という読みと、แปลกประหลาด 「奇妙な」という意味が得られた。]「きい」。奇妙な、ああ。「苦労がしのばれる、しのぼる」。</p>	
357				うん。
358		<p>[スマートフォンに「しのぼる」と打ち込む。] ฟือ しのぼ[日本語で発話する] [スマートフォンに「しのぼる」から「る」を消してしのぼ をJ-doradicで検索したが、語の候補はなかった。]しのぶ[日本語で発話する] [スマートフォンの文字を「しのぶ」に変え、J-doradicで検索すると、อดทน 「耐える」という意味が得られた。] เออ 苦労が[日本語で発話する] อดทน อี มีความ พยายามหรือเปล่านั้น อี ก็คือให้ความรู้สึกแปลก ๆ แต่ก็มีความอดทนในการเขียน</p>	<p>[スマートフォンに「しのぼる」と打ち込む。]ふー。「しのぼ」。「スマートフォンの「しのぼる」から「る」を消して「しのぼ」をJ-doradicで検索したが、語の候補はなかった。]「しのぶ」。[スマートフォンの文字を「しのぶ」に変え、J-doradicで検索すると、อดทน 「耐える」という意味が得られた。]えー、「苦労が耐える、うー、努力したのでしょうか。うー、つまり、おかしいと感じましたが書くことにおいて忍耐がありました。</p>	
359				[笑う。]
360		<p>อะไรแบบนั้นหรือเปล่า [笑う。]</p>	<p>何かこのようにことでしょうか。[笑う。]</p>	
361	p.15	<p>現在、日本を代表するヴァイオリンメーカー「鈴木バイオリン製造株式会社」では、「バイオリン」を使用しているが、明治期においては名古屋本店の看板に大きく「ヴワイオリン」という文字を掲げ、雑誌広告などでも同様の表記を多く使っていた経緯がある(注30)。</p>	<p>「現在日本の」いや、「日本を代表する」現在生産する人は、生産を代表する人は、人じゃなくて、日本の代表は、「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]を生産することで有名です。会社「鈴木」[タイ語的に発音する]など。</p>	
362				うん。

363		を使用しているが[日本語で発話する] が[ヴァイオリン[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]	「を使用しているが」んー、「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]を使います。		
364				はい。	
365		明治期においては名古屋[日本語で発話する] [黙って読んでいる。] ฝอ ในช่วงสมัย 明治[日本語で発話する] นั้นก็มีการ ดัดป้าย ใหญ่ ๆ ที่ร้านที่สาขา 名古屋[タイ語的に発音する] ว่า ヴァイオリン[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] เป็น วไวโอลิน[日本語で発話する]	「明治期においては、名古屋」。[黙って読んでいる。] ฝอ、「明治」時代の時期にありました。「名古屋」[タイ語的に発音する]支店の店に大きな看板が掲げられているところが、「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]を「วไวโอลิน」に。		
366				ฝอ-ん。	
367		อ้อ ก็คือในบรรดาหลาย ๆ カタカナ[日本語で発話する] ที่มีมาเขาก็ 鈴木[タイ語的に発音する] ที่มีชื่อเสียงเขาก็ เลือกใช้カタカナ[日本語で発話する] คำนี้	らんー、つまり、多くの「カタカナ」の中で有名な「鈴木」[タイ語的に発音する]がですね、この「カタカナ」の字を選んで使いました。		
368				ฝอ-ん。	
369		などでも同様の表記を多く使っていた経緯がある [日本語で発話する]	「などでも同様の表記を多く使っていた経緯がある」。		
370				こここのところでは1つの会社についてしか説明していないんですよね？	
371		ใช่เพราะว่า 鈴木[タイ語的に発音する] เป็น เหมือนตัวแทนในการผลิต	そうです。「鈴木」[タイ語的に発音する]は生産における代表のようなものですから、		
372				らん。	
373		วไวโอลิน[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] ในประเทศญี่ปุ่น แล้วก็โฆษณาใน นิตยสารต่าง ๆ ก็ ก็เลยใช้ ฝอ เออ คำ การเขียนแบบ เดียวกัน	日本における「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]の。それから、さまざまな雑誌の中で広告して、んー、それで、使います。使います。えー、言葉、同じ様式で書いたものを。		
374				らん。	
375		เพราะว่าน่าจะได้รับอิทธิพลจากบริษัท วไวโอลิน[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] ของ 鈴木[タイ語的に発音する]	それは「鈴木」[タイ語的に発音する]の「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]会社から影響を受けていたからです。		
376				はい。	
377	p.15	このように微妙に異なる様々な表記は明治期全般に見られる現象で、当時の人たちがviolinの発音を出来るだけ正しく日本語に置き換えようと腐心した結果といえよう。	「このように微妙に異なる、さまざまな表記は」んー、まとめて聞かせようとしていることは、「明治」時代において、ありました。たくさんのさまざまな様式で書かれたという現象がありました。		
378				らん。	
379		当時の人たちが[日本語で発話する] ヴァイオリン[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] の発音できるだけだ[日本語で発話する] ฝอ 当時の人が[日本語で発話する] ヴァイオリン[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] は できる だけ正しく ようと[日本語で発話する] อ้อ くださる ころ した結果といえよう[日本語で発話する] น่าจะ เป็นความหมายที่ค่อนข้างไม่ดี [笑う。]	「当時の人たちが」「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]「の発音できるだけだ」ฝอ。「当時の人が」「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]「は、できる、だけ正しく、ようと」らん、「くださる、ころ、した結果といえよう」おそらくかなり良くない意味だと思います。[笑う。]		
r40				[笑う。]	
381		หัวใจที่เนา	腐った心。		
382				おお[笑う。]	
383		[笑う。] แปลว่าอะไรนะ くださる ころ[日本語で発話する] [スマートフォンに「くださる」と打ち込んで「腐る」に変えて「る」を消し、「ころ」と打ち込んで「心」に変え、「腐心」をJ-doradicで検索すると、「ふしん」という読みと「苦しみ」という意味が得られた。] ฝอ ふしん[日本語で発話する] การทุกข์ใจ ก็คือ กลายเป็นว่าทุกข์ ทุกข์ใจหรือ 日本語に[日本語で発話する] [黙って読んでいる。] อ้อ 当時 当時 当時の人たちが[日本語で発話する] ヴァイオリン[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする] の 発音を [日本語で発話する] อ้อ できるだけ [日本語で発話する] ก็พยายามจะ ทำให้มัน ถอดเสียงออกมาให้ถูกต้องก็เป็นเรื่องที่ ค่อนข้างลำบากของคนญี่ปุ่นสมัยนั้นนั่นเอง ค่ะ	[笑う。]なんと訳すのでしょうか。「くださる、ころ」。[スマートフォンに「くださる」と打ち込んで「腐る」に変えて「る」を消し、「ころ」と打ち込んで「心」に変え、「腐心」をJ-doradicで検索すると、「ふしん」という読みと「苦しみ」という意味が得られた。]「ふしん、ふしん」苦しみ、つまり、苦しい、苦しみなんですか。「日本語に」。[黙って読んでいる。]らん、「当時、当時、当時の人たちが」「ヴァイオリン」[タイ語において外来語に当たり、タイ語発音をする]「の発音を」おお、「できるだけ」んー、するように努めます。音を引いて出してきて正しくできるように、その時代の日本人にとってはかなり苦労しました。はい。		
384				はい。ありがとうございました。	